

ICTを駆使した知的障害のある人の農業機械運転の支援技術開発

【研究事業名・課題名】

令和4~5年度「イノベーション創出強化研究推進事業」【基礎研究ステージ(基礎研究型)
「障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発」

研究の背景・動機

ヒツジ飼育の障害者就労支援施設へのよい影響解明



施設が明るくなる



労働意欲向上

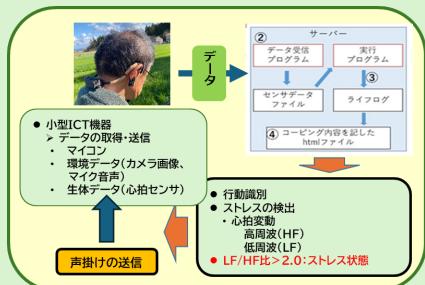
障害者就労支援施設へヒツジ生産事業導入の課題

- 利益を挙げてヒツジ生産事業を継続するのに必要な頭数のヒツジに与える大量の牧草生産
- 障害のある人による牧草生産用機械の運転による牧草生産

現在の取組みと成果

● 知的障害者が歩行式農業機械を運転する場合の課題を解明

- 機械操作を正確に操作できるのか、適切に作業ができるのかという不安を抱いていること
- 全体として傍にいる支援者が口頭または身振りで指示する程度の介入で操作可能



不安検知・安心声掛けシステム



走行方向補正システム

特願2024-33086「操縦指示方法、操縦指示装置、及び、プログラム」

これからの展望

1. 不安解消と正しい走行方向維持のための声掛けシステムの製品化、事業化
2. 淡路式農作業分析による障害者と歩行式農業機械運転とのマッチング方法の検討
3. 農業機械の安全運転のための緊急停止システムの検討

【研究開発プラットフォーム構成員】

石川県公立大学法人石川県立大学、石川県公立大学法人石川県立看護大学、
社会福祉法人佛子園、北菱電興(株)、公立大学法人富山県立大学、
(株)オーギヤ、(同)山立会、(国)信州大学農学部、(特非)EPO、
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 景観園芸系、(株)笠間農園